

平成26年度事業報告

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第62回総会（平成26年6月18日～20日）
会場：ヒルトン福岡シーホーク
会長：門田淳一（大分大学医学部呼吸器・感染症内科学講座）
2. 第61回東日本支部総会（平成26年10月29日～10月31日）
会場：東京ドームホテル
会長：清田 浩（東京慈恵会医科大学葛飾医療センター泌尿器科）
3. 第62回西日本支部総会（平成26年10月23日～25日）
会場：岡山コンベンションセンター
会長：尾内 一信（川崎医科大学小児科学）
4. 本年関連国際学会として
第15回アジア太平洋臨床微生物感染症学会議
（平成26年11月26日～29日・クアラルンプール）

B) 会務

1. 年度末正会員数 7, 272名
年度末賛助会員数 27団体、団体会員数 169団体
2. 平成26年度評議員会、同定期総会は平成26年6月19日にヒルトン福岡シーホークで開催された。
3. 新評議員（平成26年6月～平成27年3月）
東日本支部4名（現在 226名）
相野田祐介（東京女子医科大学感染症科）
藤井 毅（東京医科大学八王子医療センター感染症科）
中村 茂樹（国立感染症研究所真菌部）
松下 和彦（聖マリアンナ医科大学整形外科）

西日本支部7名（現在 199名）
浮村 聡（大阪医科大学内科学総合診療科）
重村 克巳（神戸大学大学院腎泌尿器科学分野）
西 順一郎（鹿児島大学大学院微生物学分野）
保富 宗城（和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科）
宮崎 泰可（長崎大学病院第二内科）
山岸 由佳（愛知医科大学病院感染症科）

山崎 修（岡山大学大学院皮膚科学分野）

4. 理事会6回開催

平成26年5月、6月（2回）、8月、11月、平成27年2月

C) 事業報告

1. 編集委員会

1) 日本化学療法学会雑誌（委員長 清田 浩）

・編集委員会 6回開催

・編集状況

平成26年 第62巻3号～6号

一般誌 4冊（掲載論文数15編）

平成27年 第63巻1号～2号

一般誌 2冊（掲載論文数7編）

その他編集中 2冊

・Secondary publication（二次出版）論文について規定を設け、投稿規定に追加した。

2) Journal of Infection and Chemotherapy（委員長 松本哲哉）

・編集委員会 6回開催

・編集状況

平成26年

Vol. 20 No.4～12（掲載論文数 116編）

平成27年

Vol. 21 No.1～3（掲載論文数 31編）

・投稿数が増えた為、査読システムを見直すことになり検討を行った。

・JIC Award受賞

藤島 清太郎 他（Japanese Association for Acute Medicine Sepsis Registry
Study Group）

「A multicenter, prospective evaluation of quality of care and mortality
in Japan based on the Surviving Sepsis Campaign guidelines」

（Vol. 20 No.2 p.115～120）

3) 用語委員会（委員長 清田 浩）

オゼノキサシンおよびエフィナコナゾールの略語について検討し、決定した。

また、抗菌化学療法オンライン用語集の用語の整理を行った。

2. 学術委員会（委員長 三笠桂一）

・認定学術集会 申請23件 認定23件（平成26年度 申請28件、認定28件）

・学術奨励賞受賞者

第62回総会

阿瀬川 周平（慶應義塾大学医学部呼吸器内科）

「肥満マウスにおけるインフルエンザウイルス感染症の重症化機構の検討」

平岡 政信（和歌山県立医科大学耳鼻咽喉科・頭頸部外科）

「群集解析による中耳炎患児の鼻咽腔・中耳細菌叢ダイナミズムに関する研究」

日本化学療法学会雑誌 第62巻3号 p.374-380

和田 耕一郎（岡山大学大学院医歯薬学総合研究科泌尿器病態学）

「泌尿器科領域における抗癌化学療法に伴う発熱性好中球減少症に関する
多施設共同調査」

Journal of Infection and Chemotherapy Vol.20 (2) p.104-108

三原 智（泉川病院 内科）

「Efficacy of aerosolized liposomal amphotericin B against murine invasive
pulmonary mucormycosis」

3. 学会賞選考委員会（委員長 尾内一信）

志賀潔・秦佐八郎記念賞の候補者について検討し選考を行った。

受賞者：松本 哲朗（産業医科大学）

研究テーマ：「泌尿器科領域における感染症に対する包括的研究」

4. 国際渉外委員会（委員長 川名明彦）

1) 平成26年11月25日～28日、第15回アジア・パシフィック臨床微生物・感染症学会がマレーシア、クアラルンプールで開催され、下記のAPCCMIとの共催シンポジウムを開催した。

「Genetic diagnosis for infection diseases-in collaboration with Japanese Society of Chemotherapy」

司会：岩田 敏、Louis Chai

1. Rapid detection of pathogens for the diagnosis of meningitis by
real-time PCR

千葉 菜穂子（慶應義塾大学医学部感染症学教室）

2. Molecular diagnosis for pulmonary infections

Jullian Tang (UK)

3. Evaluation of multiplex nucleic acid test for detection of
gastrointestinal pathogens

柳原 克紀（長崎大学病院検査部）

4. Genetic basis of host susceptibility to fungal infections

Louis Chai (Singapore)

「Carbapenem-resistant Enterobacteriaceae-in collaboration with

Japanese Society of Chemotherapy」

司会：舘田一博、Petrick Periasamy

1. Appropriate method for detection of carbapenem-resistant Enterobacteriaceae(CRE)

三嶋廣繁（愛知医科大学臨床感染症学）

2. Epidemiology of Carbapenem-resistant Enterobacteriaceae
Giuseppe Cornaglia (Italy)

3. Clinical Management of CRE
TBC

2) 海外派遣奨学費の候補者について検討し、選考を行った。

5. ブレイクポイント臨床応用検討委員会（委員長 舘田一博）

JAID/JSC感染症治療ガイド2014に日本化学療法学会、CLSI、EUCASTのブレイクポイントを掲載した。当学会が設定している抗菌薬のブレイクポイントに関して見直し作業を行った。

6. PK-PD 検討委員会（委員長 木津純子）

平成26年5月にPMDAから「PK-PDガイダンス」について修正案が届いた為、内容を再検討し、7月にPMDA、8月に厚生労働省へ回答した。

7. 未承認薬検討委員会（委員長 二木芳人）

1) コリスチン検討部会

コリスチンの適正使用に関する指針改訂委員会との合同で、「コリスチン適正使用の指針」の普及を促進した。また、コリスチンの承認に関して企業側にアドバイスをを行い、年度内に承認の予定を得た。

2) 高用量ピペラシリン検討部会

高用量ピペラシリンに関して実施したアンケート結果の論文の原案を作成している。

3) 注射用メトロニダゾール検討部会

注射用メトロニダゾール注射薬は2014年9月に承認された。

4) 高用量クラリスロマイシン検討部会

高用量クラリスロマイシンの必要性について調査を継続している。

肺炎に対して瀬踏みの臨床試験を開始した。

5) バンコマイシン経口薬検討部会

産学共同でバンコマイシン経口薬の必要性について検討を進めた結果、本事業を終了した。

8. 抗菌薬臨床試験指導医・指導者制度委員会（委員長 後藤直正）

1) 指導者制度講習会を3回開催した。

・第51回講習会：平成26年6月18日

第62回総会 シンポジウム8（ヒルトン福岡シーホーク）

・第52回講習会：平成26年10月25日

第62回西日本支部総会 シンポジウム16（岡山コンベンションセンター）

- ・第53回講習会：平成26年10月30日
第61回東日本支部総会 シンポジウム3（東京ドームホテル）

2) 新規申請、更新申請の受付と指導医試験を行い、9月1日付で指導医・指導者ならびに認定医の新規申請者、認定更新者を認定した。

9. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会（委員長 青木洋介）

- ・抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催
年次テーマ：入院患者の発熱
第30回 平成26年6月18日 ヒルトン福岡シーホーク
第31回 平成26年8月30日 東京国際フォーラム
第32回 平成26年10月23日 岡山コンベンションセンター
第33回 平成26年10月29日 東京ドームホテル
- ・抗菌薬適正使用生涯教育ビデオセミナー
東京 平成26年11月2日 日内会館
奈良 平成26年10月12日 奈良県文化会館小ホール
福岡 平成27年1月11日 九州大学百年記念講堂
札幌 平成27年2月8日 札幌医科大学記念ホール
神戸 平成26年3月8日 神戸大学医学部附属病院大講義室
- ・委員会を数回開催した。
- ・第31回1日コースを映像収録し、教育資料としてDVDを作成した。
- ・平成26年11月30日 第4回指導医試験を実施した。
- ・本年度指導医・認定医・認定歯科医師新規申請、認定更新申請を受付し、認定した。
- ・平成27年1月1日付けで認定証を発行した
認定者 指導医：新規26名、更新29名
認定医：新規120名、更新117名
認定歯科医師：新規23名、更新17名

10. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会（委員長 森田邦彦）

- ・抗菌化学療法認定薬剤師講習会を開催した
第11回 平成26年5月30日 ソラシティカンファレンスセンター
第12回 平成26年9月26日 名古屋国際会議場
- ・認定薬剤師試験を27年1月25日に実施した。
- ・3月1日付で131名の認定薬剤師を認定した。

11. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会（実務委員長 渡辺 彰）

- 第2回（2010年）サーベイランス
 - 1) 呼吸器感染症（5回目・954株）
論文を Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) に投稿した。
- 第3回（2011年）サーベイランス
 - 1) 耳鼻咽喉科領域（1回目・628株）
論文を Journal of Infection and Chemotherapy (JIC) に投稿した。

- 2) 複雑性尿路感染症 (2回目・997株)
論文を *Journal of Infection and Chemotherapy* (JIC) に投稿した。
3. 第4回 (2012年) サーベイランス
 - 1) 呼吸器感染症 (6回目・1236株)
 - ・成績を日本化学療法学会・日本感染症学会総会で報告 (6月・福岡) した。
 - ・ *Journal of Infection and Chemotherapy* (JIC) への論文投稿を準備中。
 - 2) 尿道炎 (淋菌、クラミジア) (2回目)
 - ・ 淋菌 (103株)
: 成績を日本化学療法学会・日本感染症学会総会 (6月・福岡)、日本臨床微生物学会 (2015年2月・東京) で報告した。
: 論文を *Journal of Infection and Chemotherapy* (JIC) に投稿し、アクセプトされた。
 - ・ クラミジア (39株): 全国 27 施設より送付され 224 検体のうち分離・培養できた 39 株について感受性を測定した。
4. 第5回 (2013年) サーベイランス
 - 1) 皮膚科領域 (1回目・865株)
全国 41 施設より送付された *S.aureus* 583 株、CNS 241 株、*S.pyogenes* 41 株の感受性を測定し結果を協力医療機関に報告した。
 - 2) 歯科・口腔外科領域 (1回目)
全国 39 施設より 246 検体が送付され分離・同定された約 800 株について感受性を測定した。現在、解析中。
5. 第6回 (2014年)
 - 1) 手術部位感染 (SSI) (2回目)
全国 27 施設にての菌株収集を終了し、回収中。
 - 2) 呼吸器感染症 (7回目)
全国 37 施設より 1491 株(2月2日現在)を収集し感受性を測定中。
6. 第7回 (2015年)
 - 1) 耳鼻咽喉科領域 (2回目・目標 1,000 株)
全国約 60 施設での実施を準備中。
 - 2) 急性膀胱炎 (2回目・目標 500 症例)
 - ・ 複雑性尿路感染症 (3回目・目標 1,000 株)
急性膀胱炎は開業医を主として全国 46 施設、複雑性尿路感染症は全国 52 施設での実施を準備中。
7. 委員会発足 10 周年の報告
日本化学療法学会・日本感染症学会合同総会 (6月・福岡)、
日本臨床微生物学会 (2015年2月・東京) で発足 10 年の成果を報告した。

12. 嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂委員会 (委員長 三嶋廣繁)

未承認薬検討委員会注射用メトロニダゾール検討部会と共同で、注射用メトロニダ

ゾールの位置付けについて検討を行った。

13. レジオネラ治療薬評価検討委員会（委員長 宮下修行）

1) 第 61 回 日本化学療法学会東日本支部総会（2014 年 10 月 31 日）において、委員会報告を行った。

2) 「4th Workshop for Legionella and other atypical respiratory pathogens」（2014 年 6 月 20 日）を開催し、中国ならびに日本におけるマイコプラズマ肺炎、レジオネラ肺炎に関する発生状況や問題点等が報告され、貴重な意見交換が行われた。

14. チゲサイクリン適正使用のための手引き作成委員会（委員長 三嶋廣繁）

第62巻3号の和文誌に「チゲサイクリン適正使用のための手引き2014」を掲載し、公表した。

15. コリスチンの適正使用に関する指針改訂委員会（委員長 二木芳人）

グラクソ・スミスクライン株式会社がコリスチン注射剤を平成 26 年 8 月申請したことにより、その製剤用のコリスチン適正使用の指針の改訂作業およびコリスチン適正使用推進の動画監修（DVD）を企業からの委託事業で開始した。

16. 呼吸器感染症臨床評価法の改訂委員会（委員長 河野 茂）

- ・平成 26 年 6 月 19 日 第 1 回委員会開催（福岡）
- ・平成 26 年 10 月 30 日 第 2 回委員会開催（東京）
- ・平成 27 年 2 月 20 日 第 3 回委員会開催（神戸）

FDA の市中細菌性肺炎に対する臨床評価法（Guidance for Industry Community-Acquired Bacterial Pneumonia）が 2014 年 1 月に改訂され、主要評価が『臨床症状を指標とした早期薬効評価（投与 3～5 日後評価）』に変更されたことから、過去の臨床試験データ（経口剤：5 薬剤、注射剤：10 薬剤）を用いて検証を行った。

17. 泌尿器感染症臨床評価法の改訂委員会（委員長 荒川創一）

抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会が 2012 年に厚労省に改訂案を提出したが、未だ検討中であり、その間に複雑性尿路感染症のガイダンスの新たなドラフトが FDA から出ていることが確認された為、改訂することになり、検討を始めた。

18. 尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン改訂委員会（委員長 荒川創一）

2012 年厚労省に提出した抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂案の中の「泌尿器科領域感染症の臨床評価のためのガイダンス」も改変することになり、その土台となった「尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドラインー第 1 版ー」も改訂することになり、検討を始めた。

19. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）

抗菌薬 TDM ガイドライン改訂の作業を始めた。

20. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会（委員長 青木信樹）

和文誌に掲載した内容に改定を加えた「呼吸器感染症治療ガイドライン」および「JAID/JSC 感染症治療ガイド 2014」を発行した。

21. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会（委員長 二木芳人）

「MRSA 感染症の治療ガイドライン 2014年改訂版」を8月にホームページ上で公表し、冊子およびポケット版を発行した。

22. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会（委員長 竹末芳生）

日本外科感染症学会と合同で「術後感染予防抗菌薬適正使用ガイドライン」を作成することになり、執筆作業を行った。

23. 小児用キノロン薬適正使用推進委員会（委員長 渡辺 彰）

- ・2014年8月6日に発足。
- ・小児耐性菌研究会に菌株収集のお願い（2014年10月18日）
- ・第1回委員会を開催し、サーベイランスのプロトコル、アンケート内容等を検討した（2015年1月19日）。

24. 耐性菌感染症対策ワーキンググループ（委員長 河野 茂）

平成26年12月20日（土）に東京国際フォーラムで、第2回目となる「耐性菌シンポジウム2014 -1年を総括して来年に備える-」を開催し、約400名の参加があった。また、当学会ホームページに講演内容を動画で掲載した。

開会の挨拶 河野 茂（長崎大学）

第一部：MRSA & CD

司会：岩田 敏（慶應義塾大学）、迎 寛（産業医科大学）

1. MRSA感染症：進化する耐性菌への挑戦
竹末 芳生（兵庫医科大学）
2. C. difficile感染症：疫学・診断から新しい治療法まで
舘田一博（東邦大学）

第二部：Gonorrhea, Anaerobes & Influenza

司会：草地信也（東邦大学）、荒川創一（神戸大学）

1. 薬剤耐性嫌気性菌
三嶋廣繁（愛知医科大学）
2. セフトリアキソン耐性淋菌：世界が注目する耐性菌
大西 真（国立感染症研究所）
3. タミフル耐性インフルエンザ
藤村 茂（東北薬科大学）

第三部：CRE & ESBL

司会：後藤直正（京都薬科大学）、堀 誠治（東京慈恵会医科大学）

1. カルバペネム耐性腸内細菌：見逃されている耐性菌
大毛宏喜（広島大学）

2. ESBL産生菌：常在菌化する耐性菌

八木哲也（名古屋大学）

閉会の挨拶 門田 淳一（大分大学）

25. 創薬促進検討委員会（委員長 舘田一博）

創薬促進に関して提言を発表した。また市民公開講座を開催するとともに、その意義に関して新聞記事などを介して情報を発信した。

26. 抗微生物薬適正使用推進検討委員会（委員長 二木芳人）

新規委員会として立ち上げ今後の活動方針を確認した。我が国における抗菌薬適正支援活動（Antimicrobial Stewardship Program；ASP）のあり方を模索し、医師（ICD, ID）や薬剤師（BICPS）などの感染症診療の専門職をどう育成し、どう活動させるかを検討する。最終的には日本版ASPのガイドラインもしくは手引を作成する。

27. 将来計画検討委員会（委員長 岩田 敏）

平成 26 年度で終了した上田記念感染症・化学療法研究奨励賞にかわる新しい学会賞を立ち上げることになり、規定および募集要項などを検討した。

28. 社会保険委員会（委員長 武田博明）

平成28年度診療報酬改定に向けて検討し、特定薬剤治療管理料（イトラコナゾール内用液）について提案書を内保連に提出した。

29. 特定費用準備資金検討ワーキング（委員長 清田 浩）

1) 薬剤耐性菌慢性予防を目的とした社会啓発事業

10 月 31 日に東京ドームホテルで「薬が効かない感染症の時代」がやってくる～忍び寄る薬剤耐性菌の恐怖～」と題して市民公開講座を開催した。また、講演内容を 12 月に日本経済新聞社の広告として掲載し、当学会ホームページには掲載紙およびパネルディスカッションを除いた動画を掲載した。

2) 特定感染症全国サーベイランス事業に関する事業

「*Clostridium difficile* 感染症 “1 日” 多施設共同研究」を行った。

30. インфекションコントロールドクター (ICD)制度

平成 26 年 12 月 認定者 59 名

(2) 平成 26 年度事業報告の附属明細書について

「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する事業報告附属明細書「事業報告書内容を補足する重要な事項」に記載すべき事項はない。

平成27年度事業計画

(1) 学術集会および会務

A) 学術集会

1. 第63回総会（平成27年6月4日～6日）
会場：京王プラザホテル
会長：二木芳人（昭和大学医学部内科学講座臨床感染症学部門）
2. 第62回東日本支部総会（平成27年10月21日～10月23日）
会場：ロイトン札幌
会長：坂田 宏（旭川厚生病院小児科）
3. 第63回西日本支部総会（平成27年10月15日～17日）
会場：奈良春日野国際フォーラム 薨～I・RA・KA～、奈良ホテル
会長：三笠桂一（奈良県立医科大学感染症センター）
4. 本年関連国際学会として
ICAAC/ICC 2015
平成27年9月17日～21日（サンディエゴ）

B) 会務

1. 理事会、評議員会の開催について
理事会年5回、評議員会年1回を予定
2. 関連団体への対応
日本医学会に評議員及び医学用語委員会委員を、日本医師会に疑義解釈委員会委員を、
内科系学会社会保険連合にそれぞれの委員を派遣する。

C) 事業計画

1. 編集委員会

- 1) 日本化学療法学会雑誌
・7冊発行予定（63巻3～6号、64巻1～2号、新薬特集号）
・編集委員会を隔月開催する。
- 2) Journal of Infection and Chemotherapy
・電子版を12号、冊子版を2号合併号として6冊発刊予定。
・編集委員会を隔月開催とする。
・4月1日から新しい電子査読システムを導入した。
・JIC賞の選考を行う。
- 3) 用語委員会
・抗菌化学療法Web用語集の用語の整理を行う。
・略語の申請の依頼があれば適宜、対応する予定である。

2. 学術委員会

- ・認定学術集会の認定作業を行う。
- ・学術奨励賞を選考する。
- ・海外留学補助制度の選考を行う。

3. 学会賞選考委員会

志賀潔・秦佐八郎記念賞の選考を行う。

4. 国際渉外委員会

- ・海外派遣奨学費の候補者について検討し、選考を行う予定である。
- ・関連国際会議として、平成27年9月17日～21日にICAAC/ICC 2015が開催される予定である。

5. ブレイクポイント臨床応用検討委員会

当学会が設定している抗菌薬ブレイクポイントに関して、感受性分布成績、PK-PDデータ、実験成績、臨床効果などを参考に見直し作業を継続して行う。その成績に関して、三学会合同抗菌薬感受性サーベイランスの菌種別感受性分布結果と併せて情報を公開する。

6. PK-PD 検討委員会

昨年、PMDAおよび厚生労働省へ再提出した「PK-PDガイダンス」の回答を待つて公表する予定である。

7. 未承認薬検討委員会

1) コリスチン検討部会

コリスチンの適正使用に関する指針改訂委員会との合同で、「コリスチン適正使用の指針」の改訂版を発表する。また、適正使用のための臨床医向けのDVD作成を監修予定。上記作業を完了時点で、本事業は終了予定。

2) 高用量ピペラシリン検討部会

高用量ピペラシリンに関して委員会として実施したアンケート結果を和文誌に公表する予定である。本作業が完了すれば、本事業は終了予定。

3) 注射用メトロニダゾール検討部会

注射用メトロニダゾールの位置付けを明らかにするべく、嫌気性菌感染症治療のガイドライン委員会と共同で指針の作成を目指す。

4) 高用量クラリスロマイシン検討部会

高用量クラリスロマイシンの臨床的意義を明らかにし承認に向けて産官学合同で取り組む。肺炎に対して瀬踏みの臨床試験を現在実施しており、症例の集積と評価を持って今後の方針を検討予定。

8. 抗菌薬臨床試験指導医・指導者制度委員会

1) 指導者制度講習会開催予定（年3回：第54回、第55回、第56回）

第63回総会：平成27年6月5日（東京）

第62回東日本支部総会：平成27年10月23日（札幌）

第 63 回西日本支部総会：平成 27 年 10 月 16 日（奈良）

- 2) 新規申請、更新申請を受け付ける
- 3) 8 月末までに新規申請者の指導医・指導者の試験を実施する

9. 抗菌化学療法認定医認定制度審議委員会

- ・ 抗菌薬適正使用生涯教育セミナー開催予定
 - 第 34 回 平成 27 年 6 月 4 日 京王プラザホテル
 - 第 35 回 平成 27 年 8 月 29 日 東京国際フォーラム
 - 第 36 回 平成 27 年 10 月 15 日 奈良春日野国際フォーラム
 - 第 37 回 平成 27 年 10 月 21 日 ロイトン札幌
- ・ 抗菌薬適正使用生涯教育ビデオセミナーを東京、札幌、神戸、奈良、福岡で開催予定
- ・ 委員会を数回開催予定
- ・ 1 日コースのビデオを作製し教育資料として販売する
- ・ 10 月末に指導医・認定医・認定歯科医の認定申請締め切り、指導医認定試験願書の締め切り
- ・ 指導医認定試験実施および認定のための作業を行う
- ・ 平成 28 年 1 月 1 日付けで認定

10. 抗菌化学療法認定薬剤師制度委員会

- 1) 認定薬剤師講習会の開催
 - ・ 第13回 平成27年5月22日 長野・キッセイ文化ホール
 - ・ 第14回 平成27年11月20日 パシフィコ横浜
- 2) 認定薬剤師試験実施
認定薬剤師申請者の試験を行い、平成28年3月1日付けで認定する。

11. 三学会合同抗菌薬感受性サーベイランス委員会

1. 第 4 回（2012 年）サーベイランス
 - 1) 呼吸器感染症（6 回目・1,236 株）
論文を *Journal of Infection and Chemotherapy(JIC)* に掲載する。
 - 2) 尿道炎（クラミジア）（2 回目・39 株）
 - ・ 成績を国内外の学会で報告する
 - ・ 2009 年に収集した 19 株の成績と合わせて論文を *Journal of Infection and Chemotherapy(JIC)* に掲載する。
2. 第 5 回（2013 年）サーベイランス
 - 1) 皮膚科領域（1 回目・860 株）
 - ・ 成績を国内外の学会で報告する。
 - ・ 論文を *Journal of Infection and Chemotherapy(JIC)* に掲載する。
 - 2) 歯科・口腔外科領域（1 回目・817 株）
 - ・ 成績を国内外の学会で報告する。
 - ・ 論文を *Journal of Infection and Chemotherapy(JIC)* に掲載する。
3. 第 6 回（2014 年）サーベイランス

1)手術部位感染（SSI）（2回目）

- ・感受性測定、解析を行い、報告書を作成する。
- ・成績を国内外の学会で報告する。
- ・論文を Journal of Infection and Chemotherapy(JIC)に掲載する。

2)呼吸器感染症（7回目）

- ・感受性測定、解析を行い、報告書を作成する。
- ・成績を国内外の学会で報告する。
- ・論文を Journal of Infection and Chemotherapy(JIC)に掲載する。

4. 第7回（2015年）

1) 耳鼻咽喉科領域（2回目）

- ・目標の1,000株を収集し、感受性を測定する。

2) 急性膀胱炎（2回目）・複雑性尿路感染症（3回目）

- ・目標の急性膀胱炎 500症例、複雑性尿路感染症 1,000株を収集し、感受性を測定する。

5. 第8回（2016年）

- ・呼吸器感染症（8回目）、尿道炎（淋菌・クラミジア）（3回目）の実施準備を行う。

6. ホームページの開設

- ・6月より独自のホームページを開設する。

12. 抗菌薬臨床評価ガイドライン改訂委員会

平成24年6月に厚生労働省へ提出した「抗菌薬の臨床評価方法に関するガイドライン」最終案の回答を待つて公表する予定である。

13. 嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂委員会（委員長 三嶋廣繁）

嫌気性菌感染症治療のガイドライン改訂版は臨床的に使用しやすいものを目指すことが決定され、今年度中に簡易版を作成することを目標とする。

14. レジオネラ治療薬評価検討委員会

- 1) 収集されたレジオネラ菌（約100株）に対し、各種薬剤のMIC、MIECを東邦大学にて測定し、東日本支部総会で報告する予定である。
- 2) これまでに収集されたレジオネラ症全例の最終結果のデータ確認終了後、日本化学療法学会雑誌に投稿する予定である。
- 3) レジオネラの診断と治療に関するアンケート調査の最終結果のデータ確認終了後、日本化学療法学会雑誌（委員会報告）に投稿する予定である。

15. チゲサイクリン適正使用のための手引き作成委員会

発刊した「チゲサイクリン適正使用のための手引き」の遵守状況について、調査する。

16. コリスチンの適正使用に関する指針改訂委員会

コリスチンの適正使用に関する指針のパブコメを求め、完成した新指針をコリスチンの承認、発売時に公表する予定である。また、DVDも併せて公表予定である。

17. 呼吸器感染症臨床評価法の改訂委員会

過去の臨床試験データによる検証結果を取りまとめ、呼吸器感染症臨床評価法の改訂案を作成する。

18. 泌尿器感染症臨床評価法の改訂委員会

厚生労働省に改訂案を提出している 2012 年のガイダンスについて、国際ハーモナイゼーションの観点から、FDA ガイダンス等と整合しない点などを勘案して、より実用性が高くグローバルなものにブラッシュアップする。それらの作業を進めるための委員会を複数回開催する。

19. 尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドライン改訂委員会

「尿路性器感染症に関する臨床試験実施のためのガイドラインー第 2 版ー」を刊行する。そのために、必要な改変点を、国際ハーモナイゼーションの観点から FDA ガイダンス等を参照して決定し、より実用性が高いものにブラッシュアップする。それらの作業を進めるための委員会を複数回開催する。

20. 抗菌薬TDMガイドライン作成委員会

抗菌薬 TDM ガイドライン改訂版の Executive summary を公表する予定である。

21. JAID/JSC感染症治療ガイド・ガイドライン作成委員会

呼吸器感染症以外の JAID/JSC 感染症治療ガイドライン作成に向けて各領域のワーキングで検討する予定である。また、呼吸器感染症については Journal of Infection and Chemotherapy に英語版を掲載してガイドライン普及に努める予定である。

22. MRSA感染症の治療ガイドライン作成委員会

新規治療薬の承認や適応症の変更、新しいエビデンスの公表などがあれば、適宜追加修正を行う。ABK の吸入療法についての記載を追加するかを検討中。

23. 術後感染予防抗菌薬適正使用に関するガイドライン作成委員会

日本外科感染症学会と合同で「術後感染予防抗菌薬適正使用ガイドライン」を発行する予定である。

24. 小児用キノロン薬適正使用推進委員会

- ・感受性サーベイランス菌株収集，測定を行い，結果を委員会にて検討する。
- ・アンケート調査をまとめ，結果を委員会にて検討する。
- ・トスフロキサシン GE 品発売後，企業からの情報提供の状態についてアンケート調査を行う。

25. 耐性菌感染症対策ワーキンググループ

平成27年12月19日（土）に東京国際フォーラムで、「耐性菌シンポジウム2015ー1年を総括して来年に備えるー」を開催し、当学会ホームページに講演内容を動画で掲載する予定である。

26. 創薬促進検討委員会

耐性菌に関する疫学情報についてサーベイランスデータを本委員会から情報発信する。また創薬促進を進めるための土台創りとして、学会—アカデミア—行政—製薬企業の連携を深める活動を促進する。行政への働きかけに関しては、日本版GAIN法、薬価の問題、臨床治験に関して相談していく。

27. 抗微生物薬適正使用推進検討委員

本年度中に医師部門、薬剤師部門のワーキンググループをそれぞれに立ち上げ、活動を開始する予定である。総会や地方会においてセミナーなどを企画の予定。

28. 将来計画検討委員会

創薬促進検討委員会等とも連携しつつ、公益目的事業などを含めて、公益社団法人としての今後の学会活動および四学会合同事業のあり方について検討していく。

29. 特定費用準備資金検討ワーキング

特定費用準備資金の薬剤耐性菌慢性予防を目的とした社会啓発事業として市民公開講座を企画し、特定感染症全国サーベイランス事業に関する事業として小児用キノロン系抗菌薬の適正使用に関するサーベイランス事業を行う予定である。

30. 社会保険委員会

要望があれば適宜、対応していく予定である。

31. 利益相反委員会（委員長 河合 伸）

日本医学会の「医学研究のCOIマネージメントに関するガイドライン改訂版」を参考にし、COI指針および細則の変更を検討する予定である。

32. インфекションコントロールドクター(ICD)制度

申請締切：平成27年10月31日